

<div data-bbox="258 434 435 611" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="472 360 783 551" data-label="Section-Header"> <p>日本組織培養学会 会員通信 第 131 号</p> </div> <div data-bbox="408 656 722 694" data-label="Text"> <p>平成 26 年 1 月 20 日</p> </div>	<div data-bbox="858 329 1112 389" data-label="Text"> <p>発行者 * 森 一憲 (昭和大学)</p> </div> <div data-bbox="858 488 1294 710" data-label="Text"> <p>* 責任者連絡先 〒142-8555 品川区旗の台1-5-8 昭和大学 薬学部 生体分子薬学講座 腫瘍細胞生物学部門 TEL: 03-3784-8209 E-mail: mori@pharm.showa-u.ac.jp</p> </div>
--	---

## 目次

1. 年頭のご挨拶 .....	2
2. 日本組織培養学会 第 87 回大会 (平成 26 年) のお知らせ .....	2
3. 第 87 回大会 奨励賞申請と発表について .....	7
4. Young Investigator Award (YIA), Application and Presentation .....	8
5. 委員会報告 .....	9
教育研究システム委員会報告 .....	9
日本組織培養学会 会員ニュース(2013 年 12 月 10 日付)より .....	10

## 1. 年頭のご挨拶

会員の皆様、新年あけましておめでとうございます。

細胞培養に関連した昨年の大きなニュースとしましては、iPS 細胞から作成した網膜色素上皮細胞シートを加齢黄斑変性症の患者に移植する臨床研究がスタートしたことが挙げられます。今夏にも実際の移植手術が行われる可能性があります。長期培養細胞、特に ES 細胞や iPS 細胞のような不死化細胞を臨床（患者）に応用することは、細胞培養史に刻まれる大きな事象です。しかし、浮足立つことなく、さらなる地道な基礎研究が益々重要な時期かと思われます。

そのような状況下、日本再生医療学会では認定制度を導入することになり、認定を受けるには細胞培養講習会の受講及び試験合格等が必要となるようです。組織培養学会では、既に「細胞培養士（商標登録済）」の認定制度を実施していることもあり、日本再生医療学会から組織培養学会に連携協力の依頼がありました。細胞培養を含む「組織培養学」を学問として提唱し、日本における細胞・組織培養の先導的な役割を果たしてきた「老舗の学会」として、惜しみなく協力をしていこうと考えております。

昨年の大会は、産総研の Renu Wadhwa 先生のご尽力により、「細胞増殖とその制御」をテーマとして、すべてが英語セッションという新しい試みがなされ、海外からも多数の参加者があり、盛大な大会となりました。本年の大会は、農業生物資源研究所の竹澤俊明先生に大会長をお引き受け頂いております。詳細につきましては、本会員通信でご案内があらうかと思えます。大会での皆様との再会を楽しみにしております。

皆様のご研究の益々のご発展をお祈りして、年頭のご挨拶とさせていただきます。

本年も宜しく願い申し上げます。

平成 26 年 1 月 会長 中村幸夫

## 日本組織培養学会 第 87 回大会（平成 26 年）のお知らせ

### ご挨拶

このたび日本組織培養学会第 87 回大会を、星陵会館（東京都千代田区永田町）において平成 26 年 5 月 29 日（木）、30 日（金）の 2 日間の日程で開催する運びとなりました。

第 87 回大会では「実用化を指向した先端培養技術」をテーマとし、生体機能の解明に有用な培養技術から、再生医療、創薬および動物実験代替法などへの応用を目指した培養技術に至るまで、活発な議論が行われる大会としたいと考えております。そこで本大会では、諸先生方の協力を頂きながら、本学会で重視している一般演題、奨励賞対象演題および細胞培養指導者講習会をはじめ、2 つの特別講演と 2 つのシンポジウムを開催することと致しました。特別講演では、欧米に於ける先端培養技術の動向を把握したいと考え、ドイツから Heike Walles 博士および米国から Jennifer H. Elisseeff 博士をお招きし、それぞれ座長を中村幸夫先生および青木茂久先生にお願いしました。また、シンポジウム 1 では、再生医療を支援する先端培養技術について、組織および臓器を再構築あるいは再生

する戦略の視点から議論したいと考え、オーガナイザーを中村真人先生と浅香勲先生にお願いしました。さらに、日本動物実験代替法学会と合同で開催するシンポジウム2では、創薬を支援する先端培養技術について、PKPD 予測に有用なヒト細胞の培養モデルの視点から議論したいと考え、オーガナイザーを酒井康行先生と絵野沢伸先生にお願いしました。

なお、大会終了後の翌 31 日（土）は星陵会館ホールにてサテライトシンポジウムとして「NIAS シンポジウム：再生医療、創薬および動物実験代替法の分野における実用化を指向したコラーゲントリゲルの開発状況」を開催させて頂くこととなりました。

つきましては、本大会およびサテライトシンポジウムに多数の皆様がご参加くださるよう、心よりお願い申し上げます。以上、いろいろ至らぬ点があるかと存じますが、宜しくご助言、ご協力のほどお願い申し上げます。

大会長 農業生物資源研究所 竹澤俊明

## 大会概要

大会名：日本組織培養学会 第 87 回大会

大会テーマ：「実用化を指向した先端培養技術」

会期：2014 年 5 月 29 日（木）・30 日（金）

会場：星陵会館（東京都千代田区永田町 2-16-2）

大会ホームページ <http://jtca.umin.jp/meet/y2014>

星陵会館（会場）ホームページ <http://www.seiryokai.org/kaikan.html>

## 予定プログラム・スケジュール

### 特別講演1

“Frontier of Tissue Engineering: a novel approach for design and translation”

Jennifer H. Elisseeff (Johns Hopkins University, USA)

座長 青木 茂久(佐賀大学)

### 特別講演2

“Engineering of complex vascular-used tissues: A new platform for regenerative medicine and ADMET analyses of chemicals”

Heike Walles (<sup>1</sup>University of Würzburg, <sup>2</sup>Fraunhofer Institute, Germany)

座長 中村 幸夫（理化学研究所）

## シンポジウム1

「再生医療を支援する先端培養技術：組織および臓器を再構築あるいは再生する戦略」

オーガナイザー

中村 真人(富山大学)

浅香 勲(京都大学)

趣旨説明. 浅香 勲

講演 1. 浅香 勲(京都大学)

「再生医療を志向した iPS 細胞の作製とその可能性」

講演 2. 紙谷 聡英(東海大学)

「ヒト多能性幹細胞からの肝前駆細胞の誘導法の確立」

講演 3. 家田 真樹(慶應義塾大学)

「心筋直接誘導による新しい心臓再生法の開発」

講演 4. 小島 伸彦(横浜市立大学)

「内部構造の制御による肝および膵島様スフェロイドの高機能化」

講演 5. 竹内 昌治(東京大学)

「ボトムアップ組織構築」

講演 6. 中山 功一(佐賀大学)

「骨折の治療から着想した新しい再生医療」

まとめ. 中村 真人

## シンポジウム2

日本動物実験代替法学会(JSAAE)・日本組織培養学会(JTCA) 合同シンポジウム

「創薬を支援する先端培養技術：PKPD 予測に有用なヒト細胞の培養モデル」

オーガナイザー

酒井 康行(東京大学)~JSAAE

絵野沢 伸(国立成育医療研究センター)~JTCA

趣旨説明. 絵野沢 伸

講演 1. 小島 肇(国立医薬品食品衛生研究所)

「新しい評価体系構築に関する欧州の動向と日本の寄与可能性」

講演 2. 柿木 基治(エーザイ株式会社)

「代謝・毒性予測の立場から培養モデルに期待すること」

講演 3. 楠原 洋之(東京大学)

「ヒト PK 予測と培養モデルへの期待」

講演 4. 石田 誠一(国立医薬品食品衛生研究所)

「iPS 細胞由来肝細胞の創薬応用の現状とその有効活用のための周辺技術」

- 講演 5. 城村友子（東洋合成工業株式会社）  
「Cell-able<sup>®</sup>を用いた薬物の肝毒性予測」
- 講演 6. 伊藤 学（SCIVAX ライフサイエンス株式会社）  
「NanoCulture<sup>®</sup> Plate を用いた三次元培養モデル」
- 講演 7. 田川 陽一（東京工業大学）  
「ES 細胞から in vitro 器官形成モデル、そして、最小ほ乳類 in vitro 生命システム」
- まとめ. 酒井 康行

#### 学会企画プログラム

奨励賞対象演題（口演・ポスター）、細胞培養指導者講習会

#### 一般演題（口演・ポスター）

- ① 生体機能の解明に有用な基礎培養技術
- ② 再生医療への応用を目指した培養技術
- ③ 創薬および動物実験代替法などへの応用を目指した培養技術
- ④ その他

#### サテライトシンポジウム

再生医療、創薬および動物実験代替法の分野における実用化を指向した  
コラーゲンビトリゲルの開発状況

#### 大会スケジュール

	5 月 28 日(水)	5 月 29 日(木)	5 月 30 日(金)	5 月 31 日(土)
午前		奨励賞対象演題 一般演題1 特別講演1	総会 一般演題3 特別講演2	サテライト シンポジウム
昼食			細胞培養指導者 講習会	
午後	幹事会	ポスター演題 一般演題2 シンポジウム1	ポスター演題 シンポジウム2	サテライト シンポジウム
夕方		懇親会		交流会

### 一般演題・奨励賞対象演題募集

募集期間は、2014 年 2 月 4 日（火）から 2 月 25 日（火）までです。大会ホームページよりご応募願います。また、奨励賞対象演題に応募される場合は、所定の申請書類を 2014 年 2 月 3 日（月）までに提出（郵送）して下さい。詳しくはホームページでご確認ください。

学会ホームページ <http://jtca.umin.jp/>

または大会ホームページ <http://jtca.umin.jp/meet/y2014>

### 参加費・事前登録

	会員種別	大会参加費	懇親会参加費
事前登録	一般会員	6,000 円	4,000 円
	学生会員	3,000 円	3,000 円
	非会員	7,000 円	5,000 円
	学生非会員	4,000 円	4,000 円
当日登録	一般会員	7,000 円	一律 5,000 円
	学生会員	4,000 円	
	非会員	10,000 円	
	学生非会員	5,000 円	
	名誉会員	全額無料	

- ・ 一般会員および学生会員には、日本動物実験代替法学会会員および学生会員も含まれます。
- ・ 事前登録は 4 月 30 日（水）までに、同封の振替用紙もしくは大会ホームページにご用意した雛形を模して、下記までお振込ください。

金融機関： ゆうちょ銀行

店名： 〇一九（読み方＝ゼロイチキュウ）

店番： 019

預金種目： 当座

口座番号： 0728612

口座名： 日本組織培養学会第 87 回大会実行委員会

- ・ 参加登録証、並びに領収証の印刷発行を自動化するため、オンライン参加証発行フォームを作成しました（2 月上旬オープン予定）。参加費を振込まれた方は、第 87 回大会ホームページ（<http://jtca.umin.jp/meet/y2014/index.html>）の「参加登録」ページから、振込時と同じ内容をご入力いただきますようお願いいたします。また、当日登録料金とはなりますが、参加者登録をして頂きますと、当日受付を簡素化できますので、よろしくご協力願います。
- ・ なお、登録方法の詳細は大会ホームページ「事前参加登録サイト」でご確認ください。

## 大会事務局

独立行政法人農業生物資源研究所 竹澤研究室

〒305-8634 茨城県つくば市大わし 1-2

TEL: (029) 838-6294 FAX: (029) 838-6294

E-mail: jtca87jimu@gmail.com

千田 俊二（事務局長）／ 押方 歩／ 須藤 理絵 ／ 山口 宏之 ／ 水野 加奈

## 第 87 回大会 奨励賞申請と発表について

教育・奨励賞担当幹事 絵野沢 伸

### 1. 申請資格

- ・ 日本組織培養学会の会員であること。
- ・ 2014年4月1日現在で40歳以下であること。
- ・ 今大会にて発表する奨励賞応募演題の筆頭発表者であること。
- ・ 日本組織培養学会 奨励賞をすでに受賞した方は再度応募できません。

### 2. 発表形式

- ・ 今後ウェブサイトの大会ホームページにて詳細をご案内いたします。なお、前回大会においては、ポスター展示に加えまして、口演（10分）を行っていただきました。

### 3. 受賞者の皆様へのお願い

- ・ 受賞者は以下の学会活動へのご協力をお願いします。
- (1) 会員通信へ「受賞の感想」を寄稿する。
- (2) 受賞題名による論文を1年以内に本学会機関誌（Tissue Culture Research Communication）に投稿する。

### 4. 応募方法

- ・ 申請用紙を本学会ホームページよりダウンロードしてご記入ください。申請書類には、本学会評議員の推薦状が含まれます。申請書類を下記宛てに書留など配送記録が残る方法で送付し、演題登録許可を得てください。その後、大会ホームページから演題抄録の登録を行っていただきます。

申請用紙ダウンロードURL; [http://jtca.umin.jp/shourei/YIA-ApplicationForm\\_2014.doc](http://jtca.umin.jp/shourei/YIA-ApplicationForm_2014.doc)

5. 応募〆切

- ・ 2月3日（月）（オンライン抄録登録開始前日）  
（演題登録許可の取得前にオンライン抄録登録は行わないようお願いいたします。）

6. 申請書類郵送先

〒157-8535 東京都世田谷区大蔵2-10-1

国立成育医療研究センター 研究所

先端医療開発室 絵野沢 伸

電話 03-5494-8163（直通）

FAX 03-3417-2864

e-mail: jtca-office@umin.ac.jp（総合窓口）

## Young Investigator Award (YIA), Application and Presentation

1. Applicants must meet the following criteria

- ・ Be equal to or less than 40-year-old on April 1, 2014.
- ・ Be the member of “Japanese Tissue Culture Association”.
- ・ Be the first author of presentation of title applied for young investigator award.
- ・ Did not receive “Young Investigator Award of Japanese Tissue Culture Association” previously.

2. Presentation

The style of presentation will be announced in the “The 87th Annual Meeting Website”. For reference, the style of presentation is usually the 10 min oral presentation and the poster display.

3. Ask for cooperation with “Japanese Tissue Culture Association”.

The prize winner will be requested (1) to submit the comments of impression for getting the Young Investigator Award to News Letter of Japanese Tissue Culture Association soon after the Annual Meeting, and (2) to submit the paper to “Tissue Culture Research Communications” by the consistent title applied to Young Investigator Award within 1 year after the Annual Meeting.

4. How to apply the forms.

You can download the application form from JCTA website. Please fill the form and apply to the below address by registered mail. Please keep in mind that this form includes the testimonial written by councilor of Japanese Tissue Culture Association. After the acceptance and approval



of application, you will be requested to submit the abstract through online registration in the Annual Meeting website.

Download the application form; [http://jtca.umin.jp/shourei/YIA-ApplicationForm\\_2014.doc](http://jtca.umin.jp/shourei/YIA-ApplicationForm_2014.doc)

5. Deadline of application.

February 3, 2014

Please do NOT submit to online registration BEFORE the approval of application by YIA office.

6. Address.

The application form should be addressed to:

Shin Enosawa

Division for Advanced Medical Sciences

National Center for Child Health & Development

2-10-1 Ookura, Setagaya-ku, Tokyo 157-8535, JAPAN

Tel; 03-5494-8163

Fax; 03-3417-2864

e-mail: [jtca-office@umin.ac.jp](mailto:jtca-office@umin.ac.jp) (The official mail address of JTCA)

## 委員会報告

### 教育研究システム委員会報告

教育研究システム委員会

片岡 健

日頃より日本組織培養学会教育研究システム委員会の活動へのご理解・ご協力をいただき感謝しております。

培養基盤技術コースの関東地方の拠点として長らく開催をお願いして参りました獨協医科大学において、最後となるコースⅠ講習会を2013年12月に開催いたしました。間中研一先生をはじめ関係各位のご尽力に対し厚く御礼申し上げます。来年度からの関東地方の開催地として、日本歯科大学と東京バイオテクノロジー専門学校で準備を進めております。コースⅡについては例年行っている医薬基盤研究所での開催ができないため、理化学研究所バイオリソースセンターでの開催を2014年2月に予定しています。また、京都大学iPS細胞研究所においても、2013年度中のコースⅡ開催を検討しております。さらにコースⅢは、例年通り東京大学で2014年3月の開催を予定しています。

細胞培養士学会認定制度に関連して、中村会長、片岡の連名で以下の会員ニュースを配信しました。この件に関してご意見、ご質問等がございましたら片岡までご連絡ください。

#### 日本組織培養学会 会員ニュース（2013 年 12 月 10 日付）より

日本再生医療学会が「臨床培養士」認定制度を施行予定であることが新聞報道されました。

日本再生医療学会は、「臨床培養士」「再生医療認定医」の認定を 2014 年度に開始する案をホームページに発表しました。認定には筆記試験と実地試験が予定されておりますが、「日本組織培養学会認定細胞培養士（Ⅰ～Ⅲ 級）の資格を有する者は、実地試験を免除する」（細則案）との提案を受けております。

この提案は、本学会が培養技術を標準化し、細胞培養士を育成することにこれまで尽力してきた活動が高く評価されたことを意味することと受け止めております。日本再生医療学会の臨床培養士認定制度の目的には本学会の細胞培養士認定制度と共通する理念があり、両学会がともに社会に貢献できるように連携・協力を進めることが有益と考えます。2014 年 3 月に開催される日本再生医療学会年次大会の際に、本学会の会長（中村）と日本再生医療学会理事との間で話し合いが予定されております。その話し合いを踏まえて、第 87 回大会における幹事会において検討し、総会で会員の皆様のご意見をお伺いしたいと考えております。

ただし、日本再生医療学会は 2014 年 3 月に総会を予定しております。そのため実際の状況がこのご報告とは異なる場合もあり得ますことをご了承ください。